

(様式第 10)

慈本管(26)第153号
平成26年10月 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 慈恵大
理事長 栗原

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
氏 名	学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東京慈恵会医科大学附属病院

3 所在の場所

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18	電話(03)3433-1111
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 神経内科 3 腎臓内科 4 内分泌・代謝内科 5 血液内科 6 循環器内科 7 呼吸器内科	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1消化器外科 2肝臓外科 3乳腺外科 4呼吸器外科 5血管外科 6小児外科 7形成外科 8心臓血管外科 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科 2病理診断科 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
49床	床	床	床	1,026床	1,075床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	689人	9.2人	698.2人	看護補助者	62人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	0.1人	9.1人	理学療法士	21人	臨床検査技師	105人
薬 剤 師	64人	0人	64.0人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	15人	その他	0人
助産師	25人	0人	25.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	996人	6人	999.6人	臨床工学技士	23人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	1人	0人	1人	栄 養 士	17人	その他の技術員	159人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	0人	事務職員	213人
管理栄養士	21人	2人	22.8人	診療放射線技師	70人	その他の職員	6人

(注)1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数 (平成26年10月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	40人	眼科専門医	14人
外科専門医	54人	耳鼻咽喉科専門医	18人
精神科専門医	16人	放射線科専門医	23人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	22人
皮膚科専門医	14人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	22人
産婦人科専門医	24人	救急科専門医	6人
		合計	301人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	826.1人	0.9人	827.0人
1日当たり平均外来患者数	2874.2人	54.1人	2928.3人
1日当たり平均調剤数	入：953剤	外：632剤	合計：1585剤
必要医師数			247人
必要歯科医師数			4人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			512人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	889.62m ²	SRC構造	病床数	39床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積17m ² /1床 (616号室～621号室) 床面積12.6m ² /1床 (611号室～615号室) 病床数床 計9床 [移動式の場合] 台数10台 (臨床工学部管理)					
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬剤部					
化学検査室	173.38m ²	SRC構造	(主な設備) ベッド等			
細菌検査室	547.76m ²	SRC構造	(主な設備) クリーンベンチ、インキュベータ等			
病理検査室	450.89m ²	SRC構造	(主な設備) 電子顕微鏡、自動免疫測定装置等			
病理解剖室	79.83m ²	SRC構造	(主な設備) 電子顕微鏡、自動免疫測定装置等			
研究室	164.37m ²	SRC構造	(主な設備) 机、PC、冷蔵庫等			
講義室	210.18m ²	SRC構造	室数 10室	収容定員 5～20人		
図書室	1633.23m ²	RC、S構造	室数 7室	蔵書数 27万冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成26年8月31日	
紹介率	67.1%	逆紹介率	52.6%
算出根拠 A: 紹介患者の数			10,447人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,791人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,047人
D: 初診の患者の数			18,616人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る)(眼科)	55人
末梢血単核球移植による血管再生療法(腎臓・高血圧内科)	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(整形外科)	3人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価(消化器・肝臓内科)	15人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん(産婦人科)	1人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん(産婦人科)	3人
パクリタキセル腹腔内反復投与療法 胃切除後の進行性胃がん(腹膜に転移しているもの、腹腔洗浄細胞診が陽性であるもの又はステージⅡ若しくはⅢであって肉眼型分類が3型(長径が八センチメートル以上のものに限る。)若しくは4型であるのものに限る。)(消化管外科)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。当院では手術が可能となった1例を含め長期生存例と全生存期間の延長を認めたが、長期生存例に再発を認め、治療実施。試験結果はJournal of Immunotherapy 2014に論文報告しました。			
医療技術名	進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドパルス樹状細胞療法 第I相臨床試験	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンと樹状細胞にWT1ペプチドをパルスした免疫療法を併用した第I相臨床試験を実施。これまでの合計で胆道癌1例と膵臓癌10例実施しました。平成25年度は膵臓癌5例実施しました。半数以上が治療にて免疫応答が誘導され、生存期間中央値は717日でした。標準治療と比較し、著しい治療効果を期待できました。試験結果はClinical Cancer Research 2014に論文報告しました。今後は先進医療を申請予定で、現在準備中です。			
医療技術名	切除不能進行膵臓癌に対するゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン化学免疫療法とゲムシタピン単独療法のランダム化第II相臨床試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。安全に実施できたため、有効性と有効性を確認する目的で、ランダム化試験を実施中です。本試験は第II相多施設共同臨床試験である。現在合計で87例がエントリーされています。			
医療技術名	経頭蓋超音波を用いた急性期脳梗塞患者の頭蓋内循環動態評価	取扱患者数	約250人
当該医療技術の概要 経頭蓋超音波を用いて急性期脳梗塞患者の頭蓋内血管の閉塞・狭窄を診断するとともに、経時的な循環動態変化を評価した。			
医療技術名	貼付け型プローブを用いた頸部血管における右左シャントおよび微小栓子検索	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 経頭蓋超音波を用いた頭蓋内血管での検索が困難な場合でも右左シャントや微小栓子の評価が可能な新規開発頸部貼付け型プローブを用いて脳梗塞原因の検索を行なった。			
医療技術名	抗CD20抗体(Rituximab)を用いたABO血液型不適合腎移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ABO血液型不適合腎移植では、抗血液型抗体が関与した拒絶反応を予防するため、従来、従前後に脾臓摘出術(脾摘)が行われてきた。脾摘に伴う侵襲および長期安全性に関する懸念があり、脾摘を行わない新たな治療法としてRituximab術前投与が行われるようになり、当院でも実施している。			
医療技術名	High-resolution manometry (HRM)を用いた食道運動機能疾患の病態評価	取扱患者数	129人
当該医療技術の概要 HRMによりアカラシアや食道運動機能障害の診断、噴門形成術前後の運動機能等を評価し、つかえ感、非心源性胸痛に対する原因究明に役立っている。			
医療技術名	24時間多チャンネルインピーダンス・pHモニター検査(MII-pH)を用いた胃食道逆流症(GERD)の病態評価	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要 MII-pHを用いることにより、従来のpHモニタリング検査単独では診断不可能であった非びらん性胃食道逆流症の適確な診断と手術適応の判定が可能となった。			
医療技術名	食道裂孔ヘルニア、食道アカラシアに対するReduced port surgery (RPS)	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 食道裂孔ヘルニア・食道アカラシア患者に対して術創の整容性に優れているRPSを、症例を選んで導入している。手術時間は延長するものの、手術成績は従来法と遜色ない。			
医療技術名	メッシュを用いた食道裂孔修復	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 教室では、①AFP分類でA2以上の食道裂孔ヘルニア、②75歳以上、③BMI 28以上の患者に対してメッシュを用いて食道裂孔の補強を行っている。			

医療技術名	胃切除後患者における13C呼気試験を用いた消化管機能検査	取扱患者数	89人
当該医療技術の概要 13C呼気試験法を用いた胃排出能、消化吸収能検査は簡便、非侵襲的に詳しく生体機能を調べられるのが特徴である。平成24年度に胃切除後患者55名に対し機能障害の評価を行った。			
医療技術名	食道癌手術におけるサーモグラフィを用いた再建臓器の血流評価	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 食道切除術後縫合不全の主因は再建臓器の血流障害である。術中サーモグラフィを用いて再建臓器の血流を評価、再建臓器における至適吻合部位を決定している。			
医療技術名	食道癌手術における反回神経モニタリングの有効性評価	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 食道切除術後の反回神経麻痺は20%~40%の頻度で生じ、嘔声や嚥下障害の原因となる。術中に反回神経をモニタリングし、同神経障害を予測することで術後管理に活用している。			
医療技術名	胃癌に対する赤外光センチネルノードナビゲーション手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 早期胃癌に対して術中内視鏡下で、ICGを腫瘍近傍粘膜下層に局注し、リンパ流を赤外光内視鏡で観察する。通常光と比べて視認性は高い。			
医療技術名	胃癌腹膜播種症例に対するS1内服・パクリタキセル静脈内および腹腔内投与・メシル酸ナファモスタット腹腔内投与併用療法(臨床第I相試験)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 胃癌癌性腹膜炎患者に対するS-1+パクリタキセル静脈内および腹腔内投与、メシル酸ナファモスタット腹腔内投与併用療法の安全性の確認。			
医療技術名	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 低侵襲・再発率低下を目的として、腹壁癒痕ヘルニア修復術を腹腔鏡下に施行している。			
医療技術名	傍ストーマヘルニアに対する腹腔鏡下修復術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 傍ストーマヘルニアはストーマ保有者の5~35%に発症する晩期合併症で、当院では専用メッシュを用いた腹腔鏡下修復術を施行し、良好な成績を得ている。			
医療技術名	肛門括約筋温存術後の残存排便機能評価	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 排便造影検査や256ch 3D-manometryを用いた肛門機能検査を施行し、肛門機能の異常を他覚的に評価・診断し、括約筋温存術後の機能評価を施行している。			
医療技術名	膵臓癌治療におけるメシル酸ナファモスタット動注療法と塩酸ゲムシタピン、及びTS-1併用療法	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 メシル酸ナファモスタットによる薬剤誘導性のNF-kBを抑制することで膵臓癌に対する標準治療薬である塩酸ゲムシタピンの感受性を改善し、またTS-1を併用することでさらなる治療効果を期待する方法である。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend pointである。			
医療技術名	切除不能胆道癌における塩酸ゲムシタピン、シスプラチン、及びTS-1 併用療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 切除不能胆道癌における標準治療である塩酸ゲムシタピン+シスプラチンの併用療法にTS-1を併用することでさらなる治療効果を期待する方法である。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend pointである。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肝移植以外に治療法のない進行性不可逆性肝疾患患者に対して、根治を目的としてその健康な三親等内の血縁者あるいは配偶者から肝臓の一部の提供を受けて、生体肝移植を行う。血液型不適合症例にも準備は整っている。			
医療技術名	肝臓外科手術における画像ナビゲーション	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 最新の画像処理技術を用いてCT画像データから肝臓の3次元画像及びその容積を算出し、より客観的に様々な手術方法について最善の治療法の検討が可能となる。この術前ナビゲーションによって肝切除手術におけるより安全かつ最適な治療方針を導くことができる。			

医療技術名	完全胸腔鏡下肺癌切除術	取扱患者数	107人
当該医療技術の概要 肺癌の根治手術が従来大きな開胸下に行われていたのに対し、小さな切開創から入れたカメラによる画像と、同じく小さな創から入れた機械により同等の手術が行える。また術後の疼痛が著しく軽減し、術後の合併症が少なく、社会復帰が早く、術後成績も優良である。			
医療技術名	完全胸腔鏡下胸腺切除	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 従来の縦隔腫瘍であれば胸骨正中切開で行われていたが、側胸部に数か所の創のみから行う手術手技。術創が小さく、創が目立たず、社会復帰が早い。			
医療技術名	難治性気胸根治術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 高度の慢性肺気腫や肺機能低下のため開胸手術が行えなかった自然気胸、続発性気胸に対して胸腔鏡を用いて行う手術や気管支充塞剤を用いて、気管支鏡下で行う手技。術後早期に退院することができ、退院後も良好な経過を取ることができる。			
医療技術名	超音波気管支鏡下生検術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 気管支周囲の占拠性病変の診断のために開発された手技。気管支鏡装置に超音波診断機を組み込み、気管～気管支壁を介して超音波のカット下に針を刺し、組織の生検を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 従来では開胸・開腹により人工血管置換術による治療しか手立てがなかった胸腹部大動脈瘤に対し、腹部内臓分枝にカバードステントやステントによる枝をつけステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 従来では胸骨正中切開し脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で、適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、頸部分枝にカバードステントやステントによる枝をつけステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う方法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するRIBS (Retrograde in situ stentgrafting)変法によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 従来では胸骨正中切開し脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で、適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、RIBSの手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う方法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するChimney法によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 従来では胸骨正中切開し脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で、適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、Chimney法の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う方法。			
医療技術名	傍腎動脈型腹部大動脈瘤に対するSnorkel法によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 従来では開腹による人工血管置換術による治療しかなかった傍腎動脈型腹部大動脈瘤に対し、腎動脈や他の腹部内臓分枝にカバードステントやステントによる枝をたてるSnorkel法を応用し、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う方法。			
医療技術名	浅大腿動脈領域における治験デバイスによる血管内治療	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 浅大腿動脈領域におけるステントは本邦では限られたものしか使用できない。しかしながら治験を行うことで新しいデバイスを使用することが可能で、新しい薬事承認がとれるよう多施設共同治験を行っている。			
医療技術名	頸動脈狭窄症に対する慈大式頸動脈内膜剥離術(慈大式CEA)	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 従来、頸動脈狭窄症に対する内膜剥離術は10-15cm程度の皮膚切開をおき内膜を取る方法が主流であったが、手技を工夫することで約3cmの切開で治療可能となった。また術中に造影を行うことで追加でステントを挿入するなどハイブリッド治療も可能である。			
医療技術名	膀胱尿管逆流症(Grade V)に対する極低侵襲手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 重症の小児膀胱尿管逆流症に対する日帰りDeflux注入療法。			

医療技術名	人工膝関節置換術におけるカスタムカッティングデバイスの研究開発	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要:人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨の状態をCTならびにMRI撮像し、専用のソフトを用いて3次元的な術前計画を立て、理想的な骨と人工膝関節の設置位置に製造されたデバイスが、手術計画に合致した位置に装着できるか、正確性、有効性、適合性を検証し、さらに開発を行う。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるペイシエント・マッチド・カッティングガイドの臨床評価	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要:人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨状態のデータに基づいて製造されたペイシエント・マッチド・カッティングガイドが、手術計画に合致した位置に装着できるか、その適合性について評価する。術後は単純X線像を用いて検証する。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるカスタム・ペイシエント・インストゥルメントの臨床評価	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要:人工膝関節置換術において、患者個々に構築された3次元骨モデルに合致する手術器械をオーダーメイドで製造し、患者の関節に装着して骨切りを行うことにより、その適合性および関節面との安定性について評価する。術後は単純X線像を用いて検証する。			
医療技術名	同種骨移植を用いた脊椎固定術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要:一般に脊椎固定術における骨移植には自家骨(局所骨や腸骨)が使用されるが、再手術例や高度変形により骨盤までの固定が必要な症例では、自家骨を使用出来ない。そのような症例では、同種骨を用いた脊椎固定術を行っている。			
医療技術名	術中CT、および術中CT画像を用いた脊椎ナビゲーション手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要:側弯症などの脊柱変形手術では術中(全身麻酔下、手術体位)に手術室内に装備された多軸型CT装置を用いて3次元のCT画像を撮像し、それをもとにナビゲーション手術を行っている。			
医療技術名	同種骨移植を併用した人工股関節再置換術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要:人工股関節再置換術では、既存のインプラント抜去後にしばしば高度の骨欠損を合併し再建が困難となる。そこで、このような骨欠損を伴う骨盤あるいは大腿骨を、同種骨移植を用いて補強または再建しながら新たな人工関節コンポーネントを設置して人工股関節再置換術を行う技術である。			
医療技術名	高位脱臼型股関節症に対する大腿骨短縮骨切り術を併用した人工股関節置換術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要:高位脱臼型股関節症に対して通常の方法で人工股関節置換術を行うと、下肢長が延長しすぎて神経麻痺などの合併症を生じてしまう。そこで、大腿骨転子下部を2~5cmにわたって切除する短縮骨切り術を併用しながら人工股関節置換術を実施する技術である。			
医療技術名	小児や成人の重度股関節障害に対する骨盤骨切り術(または臼蓋形成術)と大腿骨切り術の同時併用法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要:小児では先天性股関節脱臼後に生じた高度変形や重症ペルテス病など、成人では変形が高度な二次性変形性股関節症が対象となる。通常は骨盤側あるいは大腿骨側どちらか一方の手術が行われるが、重症変形症例では両方の手術の同時併用法が必要となる。			
医療技術名	感染人工関節に対する関節運動機能を付与した抗菌薬含有セメントスペーサー法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要:股、膝などの人工関節置換術後に深部感染を生じた症例には、一次的に病巣掻爬とインプラント(一部または全部)の抜去、二期的に関節再建を行う治療法が行われるが、両手術間の待機期間中に関節運動機能を付与した特殊な抗菌薬含有セメントスペーサーを応用する治療技術である。			
医療技術名	足・肘のスポーツ傷害に対する関節鏡視下手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 長母趾屈筋腱の腱鞘炎、三角骨障害、遊離体切除、滑膜切除などの足関節、距骨下関節鏡手術、さらに骨棘切除、滑膜切除などの肘関節鏡手術を応用し、早期のスポーツ復帰を可能にしている。			
医療技術名	Onyx液体塞栓物質LDを用いた脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 国内でも施設限定で使用可能な液体塞栓物質を用いて、脳動静脈奇形のより安全な治療を施行している。			
医療技術名	頭蓋内ステントを用いた脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 国内使用が認可されて間もない頭蓋内血管に使用可能なステントを用いて、広頸な脳動脈瘤の塞栓術を施行している。			

医療技術名	虚血性脳卒中の血管内治療： 機械的血栓除去術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 急性期脳梗塞の治療としてtPA適応外や内頸、中大脳動脈主幹部の閉塞症例に対し、機械的血栓除去術を行っている。カテーテルを利用して閉塞部に到達し、吸引もしくは機械的摘出を行うことにより再開通を試みる治療法である。			
医療技術名	グリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた免疫療法	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 神経膠腫は外科切除と放射線、化学療法を加えてもなお悪性で予後不良の疾患である。当科ではグリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた活性型グリオーマワクチンの開発を行い、臨床応用している。			
医療技術名	術中DynaCTによる再構成ナビゲーション下脳腫瘍摘出術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 手術室でDynaCTを術中に撮影し、再構成した画像を利用してナビゲーション下で腫瘍を摘出する。開頭術の術中に脳が偏位した際でも、リアルタイムな画像を元に低侵襲で確実に全摘出することができる。			
医療技術名	イリザロフ型小型創外固定器による関節拘縮の治療	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要 手指用の小型創外固定器を用いて、従来の方法に比較してはるかに少ない侵襲で拘縮解除が可能である画期的な方法であり、良好な成績が安定して得られている。			
医療技術名	顔面骨前方移動術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 顔面骨発育障害に対し、骨切りと延長器装着により、前方への仮骨延長を行う新しい方法であり、今後適応症例が増加することが予測される。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術支援	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要 骨格に著しい変形または欠損を伴う症例において、三次元画像のみで難易度の高い手術をシミュレーションすることは困難である。これに対して、本技術は、患者の骨格の実物大であって、かつ実際の手術器具を使用した手術シミュレーションが可能なる立体モデルを作製することにより、当該領域における高難度手術についての安全性および正確性が向上する。			
医療技術名	血管柄付神経移植による顔面神経の再建	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍摘出で顔面神経切除を行った症例に、外側広筋の運動枝を血管柄付で移植し、良好な神経回復を得ている。			
医療技術名	自己心膜を用いた拡大僧帽弁形成術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 人工弁置換症例で狭小弁輪(従来の人工弁が入らない)、人工弁挿入を希望しない患者に日本発の新しいコンセプトのNormo弁(自己心膜より作成)を挿入する			
医療技術名	GOG0213婦人科腫瘍学グループ プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌および卵管癌に対する二次的腫瘍減量手術の有効性、およびカルボプラチンとパクリタキセルの併用療法にベバシズマブを併用維持療法として使用した場合の有効性を検討するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌または卵管癌の患者に対して、Second lineにベバシズマブを併用、さらにベバシズマブの維持療法を行うことにより、パクリタキセルとカルボプラチン単独のsecond line化学療法と比較して、全生存期間が延長するか否かを判断する。			
医療技術名	北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアムGOTIC-001 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構JGOG3019 上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎点滴 静注投与 対 Paclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎腹腔内投与のランダム化第Ⅱ / Ⅲ相試験	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌患者に対するfirst.line 化学療法としてのPaclitaxel 毎週点滴静注(IV)投与 およびCarboplatin3 週毎IV 投与の併用療法(dd.TCiv 療法)とPaclitaxel 毎週IV 投与およびCarboplatin3 週毎腹腔内(IP) 投与の併用療法(dd.TCip 療法)の有効性および安全性を比較し、Carboplatin IP 投与の意義を検討することである。			
医療技術名	角膜、結膜の扁平上皮内癌に対する5-フルオロウラシルの点眼治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 角結膜の扁平上皮癌に対する低侵襲の抗癌剤点眼治療が近年海外で注目されている。5-FUによるパルス点眼療法を我が国では当院で初めて使用を開始した。副作用もなく良好な結果を得ている。			

医療技術名	非動脈炎性前部虚血性視神経症に対するウノプロストン点眼治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 非動脈炎性前部虚血性視神経症は現在有効な標準的治療法がない。本症に対して強力な血管収縮物質であるエンドセリン-1の抑制効果を持つウノプロストンの点眼治療を開始した。当院が中央機関となり、他施設共同ランダム化並行群間比較試験として立ち上げ、現在、副作用もなく進行中である。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜症に対する低照射エネルギー光線力学的治療	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 これまで治療法が確立されていなかった中心性漿液性脈絡網膜症に対し、非常に高い治療効果が得られている。			
医療技術名	血管疾患および黄斑浮腫に対する抗VEGF抗体(ベバシズマブ)眼内注入	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 難治性眼疾患である脈絡膜新生血管、血管新生緑内障、黄斑浮腫に対しての非常に高い治療効果を発揮している。			
医療技術名	術中CTナビゲーションシステムを用いた経鼻内視鏡手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 翼口蓋窩や頭蓋底、眼窩内の病変等に対して、経鼻内視鏡手術を実施している。術中に撮影したCT画像をナビゲーションシステムに取り込み、解剖学的危険部位をリアルタイムに把握することで、低侵襲な内視鏡手術が可能である。			
医療技術名	鼻粘膜細胞シートの中耳への移植を用いた鼓室形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 鼻粘膜細胞シートを作成し、真珠腫および癒着性中耳炎の手術の際に粘膜が欠損した部位に対して移植を行う。これにより術後の早期粘膜再生が可能となる。			
医療技術名	上肢麻痺に対する経頭蓋磁気刺激療法と集中的リハビリテーション	取扱患者数	74人
当該医療技術の概要 上記内容にて体系化した世界初の手法。			
医療技術名	失語症に対するfMRIを用いた経頭蓋磁気刺激療法と集中的リハビリテーション	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 上記内容にて体系化した世界初の手法。			
医療技術名	SPECT統計画像解析に基づいた高次脳機能障害のリハビリテーション	取扱患者数	81人
当該医療技術の概要 上記手法にて外来リハビリを施行している。			
医療技術名	VMATを用いた放射線治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 頭頸部癌及び前立腺癌に対して、強度変調回転照射を用いた根治的放射線治療を施行している。			
医療技術名	前立腺癌に対する高線量率組織内照射(HDR)	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 高リスク前立腺癌に対してホルモン療法を併用する集学的治療を施行している。放射線治療では、外部照射に加えRALSを用いた前立腺組織内照射法を施行している。			
医療技術名	肺腫瘍に対する定位照射	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 原発性及び転移性肺癌に対して、体幹部固定具及び呼吸同期を行いながら、根治線量を5回の治療で全て投与する方法。			
医療技術名	空腹時 ¹³ C-glucose呼気試験による肝臓インスリン抵抗性の診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 肝臓インスリン抵抗性を早期に診断するため、空腹時 ¹³ C-glucose呼気試験を開発し、主に脂肪肝症例で検討した。			

医療技術名	IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 インターフェロン・リバビリン併用療法の適応のある患者の血液を採取し、リンパ球を分離後DNAを抽出する。リアルタイムPCR (Polymerase Chain Reaction) 法により遺伝子多型を同定し、治療に対し感受性ないしは抵抗性の遺伝子を有無を確認することで治療効果予測を行い、インターフェロン・リバビリン併用療法の実施の適否を検討した。			
医療技術名	EWS(Endobronchial Watanabe Spigot)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 続発性難治性気胸に対して、経気管支的に気管支塞栓子EWS(Endobronchial Aatanabe Spigot)を挿入留置し治療するもの。			
医療技術名	肺エコーによる気胸の診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 単純胸部レントゲンでは確定診断困難な気胸でも、肺エコーによる診断が感度・特異度とも高く、有効であると言われるようになった。しかし経験度も重要であり、スタッフの習熟を目指している。			
医療技術名	共焦点内視鏡を使用した消化管腫瘍診断	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 Confocal laser endomicroscopyを使用し、通常内視鏡検査を行いながらの、顕微鏡レベルの診断を行う。			
医療技術名	腫瘍親和性物質である5-ALAを用いたcolitic canerのPhotodynamic diagnosis (PDD)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患に対して、腫瘍親和性物質である5-アミノレブリン酸を利用し、蛍光内視鏡によるcolitic cancerの検出を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	145 人	・膿疱性乾癬	0 人
・多発性硬化症	117 人	・広範脊柱管狭窄症	9 人
・重症筋無力症	207 人	・原発性胆汁性肝硬変	407 人
・全身性エリテマトーデス	305 人	・重症急性膵炎	13 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	53 人
・再生不良性貧血	99 人	・混合性結合組織病	30 人
・サルコイドーシス	167 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	22 人	・特発性間質性肺炎	17 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	246 人	・網膜色素変性症	307 人
・特発性血小板減少性紫斑病	195 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	24 人	・肺動脈性肺高血圧症	3 人
・潰瘍性大腸炎	478 人	・神経線維腫症	519 人
・大動脈炎症候群	29 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	9 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5 人
・天疱瘡	58 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3 人
・脊髄小脳変性症	52 人	・ライソゾーム病	75 人
・クローン病	152 人	・副腎白質ジストロフィー	7 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1 人
・悪性関節リウマチ	12 人	・脊髄性筋萎縮症	3 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	60 人	・球脊髄性筋萎縮症	9 人
・アミロイドーシス	18 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	26 人
・後縦靭帯骨化症	92 人	・肥大型心筋症	139 人
・ハンチントン病	1 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	141 人	・ミトコンドリア病	2 人
・ウェゲナー肉芽腫症	25 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	76 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	2 人	・黄色靭帯骨化症	26 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	107 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科外来診療環境体制加算	データ提出加算2
特定機能病院入院基本料一般病棟7対1	特定集中治療室管理料1・3
特定機能病院入院基本料精神病棟13対1	新生児特定集中治療室管理料1
臨床研修病院入院診療加算(医科、歯科)	新生児治療回復室入院医療管理料
救急医療管理加算	小児入院医療管理料2
超急性期脳卒中加算	
妊産婦緊急搬送入院診療加算	
診療録管理体制加算2	
50対1急性期看護補助体制加算(一般病棟)	
看護補助加算2(精神病棟50対1)	
がん診療連携拠点病院加算	
重症者等療養環境特別加算	
療養環境加算	
無菌治療室管理加算1・2	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
退院調整加算	
救急搬送患者地域連携紹介加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型除細動器移行期加算	胎児心エコー法
高度難聴指導管理料	ヘッドアップティルト試験
糖尿病合併症管理料	皮下連続式グルコース測定
がん性疼痛緩和指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
がん患者指導管理料1・2・3	神経学的検査
外来緩和ケア管理料	補聴器適合検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	ロービジョン検査判断料
糖尿病透析予防指導管理料	小児食物アレルギー負荷検査
院内トリアージ実施料	内服・点滴誘発試験
夜間休日救急搬送医学管理料	センチネルリンパ節生検(併用法・単独法)
外来リハビリテーション診療料	画像診断管理加算1
外来放射線照射診療料	遠隔画像診断
地域連携診療計画管理料(大腿骨頸部骨折・脳卒中)	CT撮影及びMRI撮影
がん治療連携計画策定料	冠動脈CT撮影加算
がん治療連携管理料	心臓MRI撮影加算
肝炎インターフェロン治療計画料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
薬剤管理指導料	外来化学療法加算1
医療機器安全管理料1・2	無菌製剤処理料
歯科治療総合医療管理料	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
在宅血液透析指導管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
持続血糖測定器加算	運動器リハビリテーション料(I)
造血器腫瘍遺伝子検査	呼吸器リハビリテーション料(I)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	集団コミュニケーション療法料
検体検査管理加算(I)	歯科口腔リハビリテーション料2
検体検査管理加算(IV)	医療保護入院等診療料
遺伝カウンセリング加算	エタノールの局所注入(副甲状腺)
植込型心電図加算	透析液水質確保加算2
時間内歩行試験	一酸化窒素吸入療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
組織拡張器による乳房再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	生体腎移植術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	膀胱水圧拡張術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	人工尿道括約筋植込・置換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
上顎骨形成術・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	輸血管管理料 I
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	輸血適正使用加算
経皮的冠動脈形成術	貯血式自己血輸血管管理体制加算
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
経皮的冠動脈ステント留置術	広範囲顎骨支持型装置埋込手術
経皮的中隔心筋焼灼術	麻酔管理料(I)(II)
ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術	放射線治療専任加算
植込型心電図記録計移植術・植込型心電図記録計摘出術	外来放射線治療加算
両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術	高エネルギー放射線治療
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	一回線量増加加算
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	強度変調放射線治療(IMRT)
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
補助人工心臓	体外照射呼吸性移動対策加算
経皮的大動脈遮断術	直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
ダメージコントロール手術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下肝切除術	病理診断管理加算2
生体部分肝移植術	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・超音波骨折治療法	・
・腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	88回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 32 例 / 剖検率 7.4%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		
高免疫原性細胞ワクチンと化学療法との併用による低侵襲・個別化療法の確立	小井戸薫雄	消化器・肝臓内科	1,560,000 円	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
人工多能性幹細胞技術を応用した腫瘍周細胞を標的とした樹状細胞療法の開発	小井戸薫雄	消化器・肝臓内科	1,000,000 円	補委	日本イーライリリー研究助成金
急性脳梗塞治療加速のための薬物超音波併用次世代普及型低侵襲システムの開発(H24-医療機器一般-006)	井口保之	神経内科	37,050,000 円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(医療機器開発推進研究事業研究事業)
塞栓症原因となる微小栓子の検出力を向上した頸部栓子検出装置の開発	三村秀毅	神経内科	18,531,633 円	補委	経産省課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業
胎生組織ニッチ法による生体幹細胞誘導型臓器再生手技の開発	横尾隆	腎臓・高血圧内科	1,430,000 円	補委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
糖尿病腎症進展におけるリン代謝の役割	横山啓太郎	腎臓・高血圧内科	1,820,000 円	補委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
BMPによる糸球体血管係蹄発生と正常構造維持における役割	宮崎陽一	腎臓・高血圧内科	1,300,000 円	補委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
日本人におけるネフロン数の推計	坪井伸夫	腎臓・高血圧内科	1,170,000 円	補委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
IgA腎症末梢血単球のmiRNA発現プロファイルとその発症・進展への関与の解明	上田裕之	腎臓・高血圧内科	910,000 円	補委	文部科学省科研費、若手研究(B)
腎臓におけるカベオリン1の意義に関する検討	山本泉	腎臓・高血圧内科	1,300,000 円	補委	文部科学省科研費、若手研究(B)
CD26の腎疾患における先端治療法としての分子標的療法の基礎的研究	小林政司	腎臓・高血圧内科	1,430,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
ニワトリ胚を用いた新規腎臓再生法の開発	福井亮	腎臓・高血圧内科	1,040,000 円	補委	文部科学省科研費、若手研究(B)
自殺誘導マウスを用いたエリスロポエチン産生組織誘導法の開発	松本啓	腎臓・高血圧内科	1,430,000 円	補委	文部科学省科研費、若手研究(B)
進行性腎障害に関する調査研究	川村哲也(分担者)	腎臓・高血圧内科	3,500,000 円	補委	厚労省科研費難治性疾患克服研究事業補助金
進行性腎障害に関する調査研究	横尾隆(研究協力者)	腎臓・高血圧内科	1,300,000 円	補委	厚労省科研費難治性疾患克服研究事業補助金
慢性腎不全モデルマウスにおける新規化合物ChemicalAの血管石灰化抑制についての検討	大城戸一郎	腎臓・高血圧内科	1,000,000 円	補委	公益財団法人日本腎臓財団腎不全病態研究助成
脂肪由来間葉系幹細胞が腎不全ラットの貧血状態および血管病変に与える影響の検討	横手伸也	腎臓・高血圧内科	300,000 円	補委	公益財団法人日本腎臓財団腎不全病態研究助成
2型糖尿病患者における遺伝子のコピー数多型および一塩基多型と腎機能との関連調査	中島章雄	腎臓・高血圧内科	300,000 円	補委	公益財団法人日本腎臓財団腎不全病態研究助成
移植後腎移植を用いたエリスロポエチン産生組織新規発生法の開発	松本啓	腎臓・高血圧内科	1,000,000 円	補委	慈恵医師会研究奨励賞

慢性腎臓病モデルにおけるT型Caチャンネル抑制によるRho-kinaseの関連	菅野直希	腎臓・高血圧内科	1,000,000 円	補委	東京慈恵会医科大学研究奨励費
再生医療を活用した慢性腎不全ペットネコのための腎性貧血治療法開発	横尾隆	腎臓・高血圧内科	700,000 円	補委	研究成果最適展開支援事業(A-STEP)探索タイプ
副腎と心臓におけるアルドステロン合成の機序の研究	吉村道博	循環器内科	1,430,000 円	補委	文部科学省科研費基盤研究C
特発性心筋症に関する調査研究	吉村道博	循環器内科	300,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究	吉村道博	循環器内科	500,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金循環器病研究開発費
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究 JASPER研究	吉村道博	循環器内科	500,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金循環器病研究開発費
不全心筋における細胞内情報伝達系と細胞内カルシウム動態の変化	森本智	循環器内科	1,040,000 円	補委	文部科学省科研費若手研究B
糖尿病性心筋障害の病態に関わる分子の探索及び機能解析	香山洋介	循環器内科	1,170,000 円	補委	文部科学省科研費若手研究B
小児のインスリン抵抗性と関連する肥満以外の因子の検討	西村理明	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,170,000 円	補委	文部科学省科研費基盤研究(C)
高齢者の境界型糖尿病における網膜病変に関する地域調査研究	佐野浩斎	糖尿病・代謝・内分泌内科	650,000 円	補委	文部科学省科研費挑戦的萌芽研究
ROCK2による血管内皮機能調節機構の解明	川浪大治	糖尿病・代謝・内分泌内科	780,000 円	補委	文部科学省科研費若手研究(B)
GlucolipototoxicityにおけるPKC δ 依存性 β 細胞死	藤本啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,560,000 円	補委	文部科学省科研費基盤研究(C)
糖尿病腎症の進展過程におけるROCK2の意義	的場圭一郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,950,000 円	補委	文部科学省科研費若手研究(B)
気道上皮細胞の喫煙誘導細胞老化におけるマイトファジー、ミトコンドリア動態の役割	原弘道	呼吸器内科	2,080,000 円	補委	日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患におけるフェノタイプ解析と分子病態解析による新規診断治療法の確立	中山勝敏	呼吸器内科	1,950,000 円	補委	日本学術振興会
肺損傷と線維化におけるエクソソームを介する情報伝達の意義	桑野和善	呼吸器内科	1,820,000 円	補委	日本学術振興会
肺線維症病態におけるオートファジーと小胞体ストレス応答が制御する細胞運命	荒屋潤	呼吸器内科	1,950,000 円	補委	日本学術振興会
STR7によるオートファジーと細胞老化の制御のCOPDにおける意義	小島淳	呼吸器内科	4,160,000 円	補委	文部科学省
睡眠医療及び睡眠研究用プラットフォームの構築に関する研究	伊藤洋	精神神経科	500,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金
多彩な嗜癡行動(薬物と薬物によらない依存)の脳内機序と新規治療開発に関する研究	官田久嗣	精神神経科	1,800,000 円	補委	文部科学省研究費基盤研究(C)
臨床評価を踏まえた睡眠障害の治療ガイドライン作成および難治性の睡眠障害の治療法開発に関する研究	山寺亘	精神神経科	1,000,000 円	補委	厚生労働科学研究省障害者対策総合研究事業
不眠症を対象とした認知行動療法による睡眠構造及び自律神経活動に与える影響	小曾根基裕	精神神経科	2,600,000 円	補委	文部科学省研究費基盤研究(C)
精神科臨床症例において、発達障害に併存する、精神障害の病態の解明と診断方法に関する精神病理学的研究	小野和哉	精神神経科	1,000,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金

質的研究手法を用いた統合失調症初発症例における治療へのアドヒアランスに関する研究	古賀聖名子	精神神経科	910,000 円	(補委)	文部科学省研究費基盤研究(C)
神経変性疾患における社会認知障害の神経メカニズムの解明	品川俊一郎	精神神経科	500,000 円	(補委)	公益財団法人三越厚生事業団助成
人工多能性幹細胞を用いた亜癩黒色腫に対する養子免疫療法の確立	伊藤 宗成	皮膚科	3,000,000 円	(補委)	文部科学省科研費若手研究(B)
安定同位体医学応用研究基盤拠点の形成	中田浩二	外科	1,000,000 円	(補委)	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
安定同位体医学応用研究基盤拠点の形成	川村雅彦	外科	500,000 円	(補委)	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
PPI治療抵抗逆流性食道炎患者における治療薬変更後の症状改善効果についての研究	矢野文章	外科	1,100,000 円	(補委)	NPO法人消化器疾患治療研究推進機構臨床研究助成金
肺癌に対するビタミンDサプリメント二重盲検ランダム化プラセボ比較臨床研究	秋葉直志	外科	650,000 円	(補委)	文部科学省科学研究費
乳癌患者の術前・術後における精神状態に対する軽度運動実践の効果	神尾麻紀子	外科	1,000,000 円	(補委)	公益財団法人明治安田厚生事業団
バイオフィルム感染症制圧研究拠点の形成	丸毛啓史	整形外科	500,000 円	(補委)	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
神経線維腫症に伴うdystrophic typeの脊柱変形の長期術後成績に関する研究	舟崎裕記	整形外科	900,000 円	(補委)	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
円筒形チタン細繊維を用いた靭帯・骨接合部の再建-ミニプタを用いた検討-	丸毛啓史	整形外科	2,730,000 円	(補委)	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
慢性閉塞性肺疾患における骨脆弱化機序の解明-全身性コラーゲン分析をもとに-	斎藤充	整形外科	1,300,000 円	(補委)	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
新たな骨粗鬆症モデルの確立-肥満に合併する骨脆弱化の機序の解明-	木田吉城	整形外科	2,470,000 円	(補委)	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
関節リウマチに対する新規生物学的製剤の確立-Wnt非古典経路を標的として-	前田和洋	整形外科	2,990,000 円	(補委)	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
流体解析に基づいた脳動脈瘤治療用セミカスタムメイドステントの開発	村山雄一	脳神経外科	10,468,409 円	(補委)	経済産業省課題解決型医療機器等開発事業
感温性ポリマーを用いた自家線維芽細胞移植による脳動脈瘤新規治療法の開発	大橋洋輝	脳神経外科	4,290,000 円	(補委)	文部科学省科研費、若手研究(B)
重症心不全患者に対するテイラーメイド方式心臓サポートネット開発	橋本和弘(分担者)	心臓外科	2,755,770 円	(補委)	文部科学省研究開発施設共用促進費補助金(橋渡し研究加速ネットワークプログラム)
卵巣明細胞腺癌の臨床的特殊性からのバイオマーカーの同定	高倉聡	産婦人科	1,560,000 円	(補委)	文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
卵巣明細胞腺癌に対するIL6/STAT3シグナルを標的とした分子標的治療法の確立	矢内原臨	産婦人科	1,560,000 円	(補委)	文部科学省研究費補助金基盤研究(C)

卵巣明細胞腺癌に対するIL6/STAT3シグナルを標的とした分子標的治療法の確立に対するテムシロリムスを含む化学療法の有効性および安全性に関する研究	落合和徳	産婦人科	1,600,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金(治験推進研究事業)
去勢抵抗性前立腺がんに対する新規がんペプチドワクチン療法開発のための第Ⅰ相・第Ⅱ相(前半)臨床試験	穎川 晋	泌尿器科	1,000,000 円	補委	厚生労働科学省
低用量BCG膀胱腔内注入維持療法の再発予効果ならびに安全性に関するランダム化比較試験	穎川 晋	泌尿器科	300,000 円	補委	厚生労働科学省
前立腺癌に対するシグナルクロストロークの解明	清田 浩	泌尿器科	2,080,000 円	補委	文部科学省
脊髄における下部尿路機能を制御する神経伝達物質の網羅的解析と新規治療薬の探求」	古田 昭	泌尿器科	650,000 円	補委	文部科学省
プロテオミクス解析およびパスウェイ解析による新規前立腺癌バイオマーカーの検討	木村高弘	泌尿器科	1,560,000 円	補委	文部科学省
鼻粘膜上皮細胞シートを用いた鼓室形成術の開発	小島博己	耳鼻咽喉科	1,400,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
立体画像ナビゲーションシステムを用いた新しい内視鏡下鼻副鼻腔手術術式の研究	鴻信義	耳鼻咽喉科	1,000,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
空中浮遊微生物(真菌、黄色ブドウ球菌)による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明	松脇由典	耳鼻咽喉科	1,100,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
22q11.2欠失症候群の内耳形成異常におけるFGFファミリーシグナルの機能解析	谷口雄一郎	耳鼻咽喉科	1,100,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
難治性副鼻腔炎と下気道疾患の関連-IL-33による粘膜組織内の相互作用について-	和田弘太	耳鼻咽喉科	900,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
慢性副鼻腔炎の新規治療法開発に向けた環境要因と局所免疫応答の相互作用の解明	浅香大也	耳鼻咽喉科	700,000 円	補委	文部科学省科研費 若手研究(B)
鼻副鼻腔手術における重畳表示型ナビゲーションシステムの開発	飯村慈朗	耳鼻咽喉科	1,200,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
骨組織の免疫応答が慢性副鼻腔炎に与える影響について	大櫛哲史	耳鼻咽喉科	1,100,000 円	補委	文部科学省科研費 若手研究(B)
神経堤細胞が蝸牛有毛細胞に分化するメカニズムの解明	宇田川友克	耳鼻咽喉科	1,200,000 円	補委	文部科学省科研費 若手研究(B)
頭頸部癌におけるゲノムコピー数多型解析を用いたヒトパピローマウイルス感染の検討	濱孝憲	耳鼻咽喉科	1,400,000 円	補委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
好酸球性副鼻腔炎における新規バイオマーカーの同定-エントタイプ確立を目指して-	中山次久	耳鼻咽喉科	1,000,000 円	補委	文部科学省科研費 若手研究(B)

内耳発生後期に必要なラセン靭帯分化誘導シグナルの解明	小林俊樹	耳鼻咽喉科	1,100,000 円	補委	文部科学省科研費 若手研究(B)
上肢麻痺の治療triplecombinationtreatmentの確立	安保雅博	リハビリテーション科	1,300,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)
脳外傷者の自動車運転能力に関する脳科学的評価法の確立	渡邊修	リハビリテーション科	2,340,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
脳卒中後歩行障害に対する、バタフライ・コイルによるrTMSの臨床的有用性の検討	角田亘	リハビリテーション科	910,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
急性期～亜急性期脳卒中患者に対するrTMS治療	佐々木信幸	リハビリテーション科	520,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
嚥下障害治療法としての反復経頭蓋磁気刺激と集中的リハビリテーション併用療法の確立	百崎良	リハビリテーション科	1,170,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
脳卒中後嚥下障害に対する機能的磁気刺激の検討	百崎良	リハビリテーション科	300,000 円	補委	岡田澄子記念国際研究基金
高次脳機能障害に対する経頭蓋的磁気刺激治療の検討	原貴敏	リハビリテーション科	650,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
安定同位医学応用研究基盤拠点(SI医学応用研究基盤拠点)の形成	(分担)松浦知和	中央検査部	2,000,000 円	補委	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
次世代生命基盤技術を用いたB型肝炎抑制のための創薬研究	(分担)松浦知和	中央検査部	19,000,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金
中枢神経系に及ぼす筋弛緩薬の作用機序の解明	上園晶一	麻酔部	910,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究	北原雅樹	麻酔部 (ペインクリニック)	1,500,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金
肝・腎臓における虚血再灌流障害に対する麻酔薬による保護効果の機序に関する研究	三尾寧	麻酔部	650,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
In vivo ナノイメージングによる心疾患の病態解析	照井貴子	麻酔部	1,430,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
抗癌薬バルプロ酸の術後投与による術後痛の軽減とそのメカニズムの解明	甫母章太郎	麻酔部	1,040,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
慢性筋痛の病態解析と運動療法の効果検証	森本(宮崎)温子	麻酔部 (ペインクリニック)	1,170,000 円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
共焦点内視鏡による胃癌組織型診断	炭山和毅	内視鏡科	2,080,000 円 (うち間接経費:480,000) 円	補委	文部科学省研究費補助金若手研究(B)
共焦点内視鏡による消化管粘膜下腫瘍の生体内病理観察	大谷友彦	内視鏡科	2,000,000 円	補委	上原記念生命科学財団
Suture&cuttechniqueによる内視鏡的全層切除術(EFTR)法の開発	樺俊介	内視鏡科	1,000,000 円	補委	NOTES研究会
輸血療法における重篤な副作用であるTRALI・TACOに対する早期診断・治療のためのガイドライン策定に関する研究	田崎哲典	輸血部	2,920,000 円	補委	厚生労働科学研究費補助金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Nakao Y	Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology	Endoscopic features of colorectal serrated lesions using image-enhanced endoscopy with pathological analysis.	European Journal of Gastroenterology and hepatology, 2013 August; 25(8):981-8
2	Makoto Mitsunaga	Molecular Imaging Program, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institutes of Health	Fluorescence endoscopic detection of murine colitis-associated colon cancer by topically applied enzymatically rapid-activatable probe.	Gut, 2013 August. 62(8):1179-86
3	Jimi Mitobe	Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology	Clinicopathological investigation of lymph node metastasis predictors in superficial esophageal squamous cell carcinoma with a focus on evaluation of lympho-vascular invasion.	Gastroenterology and hepatology, 2013 August; 25(8):981-8
4	Munenori Itagaki	Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine	Efficacy of zing-carnosine chelate compound, Polaprezinc, enemas in patients with ulcerative colitis.	Scandinavian Journal of Gastroenterology, 2013 November, 49:164-72.
5	Daisuke Ide	Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology	Visualization of colorectal neoplasia by a second generation autofluorescence imaging system.	Scandinavian Journal of Gastroenterology, 2013 November, 48(11):1302-07.
6	Nobuhiko Komoike	Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine	Photodynamic Diagnosis of Colitis-associated Dysplasia in a Mouse Model After Oral Administration of 5-Aminolevulinic Acid.	In Vivo, 2014 November-December, 27(6):747-53
7	Iguchi Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Kurashiki Stroke Registry investigators. Stroke incidence and usage rate of thrombolysis in a Japanese urban city: the kurashiki stroke registry.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 22 : 349-357.2013
8	Kono Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Clinical Characteristics Associated with Abnormal Diffusion-Weighted Images in Patients with Transient Cerebral Ischemic Attack.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 23:1051-55.2013
9	Kono Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Multifocal conduction block in a patient with sarcoid neuropathy: successful treatment with intravenous immunoglobulin.	Intern Med 2013; 52: 999-1002.
10	Mitsumura H	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Stiffness parameter β of cardioembolism measured by carotid ultrasound was lower than other stroke subtypes.	J Stroke Cerebrovasc Dis 2014;23:1391-95
11	Yogo M	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Intensive lipid lowering therapy with titrated rosuvastatin yields greater atherosclerotic aortic plaque regression: Serial magnetic resonance imaging observations from RAPID study.	Atherosclerosis 2014;232:31-39.
12	Umehara T	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Postprandial hypotension in de novo Parkinson's disease: A comparison with orthostatic hypotension.	Parkinsonism Relat Disord. 2014;20:573-7
13	Sakamoto Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Early ischaemic diffusion lesion reduction in patients treated with intravenous tissue plasminogen activator: infrequent, but significantly associated with recanalization.	Int J Stroke 2013 ; 8 : 321-326.

14	Sakamoto Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Factors Associated with Proximal Carotid Axis Occlusion in Patients with Acute Stroke and Atrial Fibrillation.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2013;23:799-804
15	Sakamoto Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Systolic Blood Pressure After Intravenous Antihypertensive Treatment and Clinical Outcomes in Hyperacute Intracerebral Hemorrhage: The Stroke Acute Management With Urgent Risk-Factor Assessment and Improvement-Intracerebral Hemorrhage Study.	Stroke. 2013;44:1846-1851
16	Sakamoto Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Dramatic changes of a DWI lesion in a patient with acute ischemic stroke treated with IV t-PA.	J Neuroimaging. 2013;23:228-230
17	Sakamoto Y	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Complex visual hallucinations as the sole manifestation of secondary occipito-temporal lobe epilepsy due to old intracranial hemorrhage.	Seizure 2014;23:244-246.
18	Komatsu T	Department of Neurology, Jikei University School of Medicine	Pseudomyopathic changes in needle electromyography in lambert-eaton myasthenic syndrome.	Case Rep Neurol Med 2013; 369278
19	Watanabe K	Division of Kidney and Hypertension, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan	Chest X-ray may serve as a screening examination for coronary artery calcification in dialysis patients.	Kidney Int. 2014;85 (3) 710
20	Kurashige M1.2	1Laboratory for Endocrinology and Metabolism, RIKEN Center for Genomic Medicine, Yokohama, Kanagawa, Japan, 2 Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan,	The influence of a single nucleotide polymorphism within CNDP1 on susceptibility to diabetic nephropathy in Japanese women with type 2 diabetes	PLoS One. 2013;8(1)e54064
21	Kanzaki G	Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine	Distribution of glomerular density in different cortical zones of the human kidney.	Pathol Int. 2013;63(3)169-75
22	Tsuboi N	Division of Kidney, Hypertension, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine	Factors related to the glomerular size in renal biopsies of chronic kidney disease patients.	Clin Nephrol.2013;79(4)277-84
23	Tsuboi N	Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine	Clinical features and long-term renal outcomes of Japanese patients with obesity-related glomerulopathy.	Clin Exp Nephrol.2013;17(3)379-85
24	Sugano N	Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan	Physician's awareness of home blood pressure in the treatment of hypertensive patients with chronic kidney disease.	O J of Nephrology.2014;4(1)28-36
25	Kashiwagi Y	Jikei Univ	Suppression of primary aldosteronism and resistant hypertension by the peroxisome proliferator-activated receptor gamma agonist pioglitazone.	Am J Med Sci 345(6); 497-500: 2013.

26	Ito K	Jikei Univ	An immunohistochemical analysis of tissue thrombin expression in the human atria.	PLoS One 8(6); e65817: 2013.
27	Minai K	Jikei Univ	Cardiac tamponade as an independent condition affecting the relationship between the plasma B-type natriuretic peptide levels and cardiac function.	Heart Vessels 28(4); 510-3: 2013
28	Fujisaki M	Jikei Univ	Rapid induction of aldosterone synthesis in cultured neonatal rat cardiomyocytes under high glucose conditions.	Biomed Res Int 2013: 161396: 2013
29	Kashiwagi Y	Jikei Univ	Coronary spastic angina is associated with insulin resistance - possible involvement of endothelial dysfunction.	Coron Artery Dis 24(7); 559-65: 2013.
30	Katoh D	Jikei Univ	A technique for quantifying intracellular free sodium ion using a microplate reader in combination with sodium-binding benzofuran isophthalate and probenecid in cultured neonatal rat cardiomyocytes.	BMC Res Notes 6; 556: 2013.
31	Morimoto S	Jikei Univ	Genetic modulation of the SERCA activity does not affect the Ca ²⁺ leak from the cardiac sarcoplasmic reticulum.	Cell Calcium 55 (1) ; 17-23: 2014.
32	Inada K	Jikei Univ	The role of successful catheter ablation in patients with paroxysmal atrial fibrillation and prolonged sinus pauses: outcome during a 5-year follow-up.	Europace 16(2); 208-13: 2014.
33	Mori Y	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Additive effects of cilnidipine, an L-/N-type calcium channel blocker, and an angiotensin II receptor blocker on reducing cardiorenal damage in Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty rats with type 2 diabetes mellitus.	Drug Des Devel Ther.
34	Katoh S	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Fatty liver and serum cholinesterase are independently correlated with HbA1c levels: cross-sectional analysis of 5384 people.	J Int Med Res.
35	Ishizawa S	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Sphingosine-1-phosphate induces differentiation of cultured renal tubular epithelial cells under Rho kinase activation via the S1P2 receptor.	Clin Exp Nephrol.
36	Ando K	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	24-hour glycemic variations in drug-naïve patients with type 2 diabetes: a continuous glucose monitoring (CGM)-based study.	PLoS One.
37	Mori Y	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Effects of low-carbohydrate/high-monounsaturated fatty acid liquid diets on diurnal glucose variability and insulin dose in type 2 diabetes patients on tube feeding who require insulin therapy.	Diabetes Technol Ther.
38	Kawanami D	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Fasudil inhibits ER stress-induced VCAM-1 expression by modulating unfolded protein response in endothelial cells.	Biochem Biophys Res Commun.
39	Suzuki H	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Effects of co-administration of candesartan with pioglitazone on inflammatory parameters in hypertensive patients with type 2 diabetes mellitus: a preliminary report.	Cardiovasc Diabetol.
40	Seo C	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Comparison of glycemic variability in patients with type 2 diabetes given sitagliptin or voglibose: a continuous glucose monitoring-based pilot study.	Diabetes Technol Ther.

41	Matoba K	Department of Internal Medicine Division of Diabetes and Endocrinology	Rho-kinase inhibition prevents the progression of diabetic nephropathy by downregulating hypoxia-inducible factor 1 α .	Kidney Int.
42	Nagasaki E	Division of Clinical Oncology/Hematology	Complete response of esophageal small cell carcinoma after irinotecan treatment.	J Infect Chemother. 2013 Aug;19(4):770-5.
43	Suzuki K	Division of Clinical Oncology/Hematology	Rapid progression of anemia related to tumor lysis syndrome associated with bortezomib treatment in myeloma patients.	Jpn J Clin Oncol. 2014 May;44(5):435-41.
44	Kuwano K	Department of Internal Medicine, Division of Respiratory Diseases, Jikei University School of Medicine, 3-25-8 Nishi-shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8461, Japan	Apoptosis inhibitor of macrophage (AIM) expression in alveolar macrophages in COPD.	Respir Res. 2013 Mar 5;14:30.
45	Kuwano K	Department of Internal Medicine, Division of Respiratory Diseases, Jikei University School of Medicine	Insufficient autophagy in idiopathic pulmonary fibrosis.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 304:L56-69, 2013
46	Kuwano K	Department of Microbiology and Infectious Diseases, Teicho University School of Medicine, Tokyo 143-8540, Japan.	Protective effect of procysteine on Acinetobacter pneumonia in hyperoxic conditions.	J Antimicrob Chemother. 2013 Oct;68(10):2305-10.
47	Kuwano K	Division of Respiratory diseases, Dept. of Internal Medicine, Jikei Univ. School of Medicine, Japan. hirohara@jikei.ac.jp.	Mitochondrial fragmentation in cigarette smoke-induced bronchial epithelial cell senescence.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2013 Nov;305(10):L737-46
48	Kuwano K	Department of Internal Medicine, Division of Respiratory Diseases, Jikei University School of Medicine,	A novel platform to enable inhaled naked RNAi medicine for lung cancer.	Sci Rep. 2013 Nov 25;3:3325. doi: 10.1038/srep03325
49	Ohno I.	Division of General Medicine, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine	Guidelines on the use of iodinated contrast media in patients with kidney disease 2012: digest version : JSN, JRS, and JCS Joint Working Group.	Clin Exp Nephrol. 2013 Aug;17(4):441-79. doi: 10.1007/s10157-013-0843-3.
50	Yamadera W	Department of Psychiatry	Comparisons of short term efficacy between individual and group cognitive-behavioral therapy for primary insomnia.	Sleep and Biological Rhythms, 2013; 11(3): 176-84.
51	Ozone M	Department of Psychiatry	Sleep structure in medicated schizophrenia: A pilot study using cyclic alternating pattern method.	Sleep Biol Rhythm 2013;11: 278-81.
52	Nakamura K	Department of Psychiatry	Which stress does influence returning to work in Japan, inside or outside the workplace?	Iranian Journal of Public Health 2013. 42(11):1207-1215.
53	Tagai K	Department of Psychiatry	Mirtazapine improves visual hallucinations in Parkinson's disease.	Psychogeriatrics. 2013 ;13:103-107.
54	Daishi Hirano ^{1, 2} ,	1 Division of Nephrology, Saltama Children's Medical Center, Saltama, 2 Department of Pediatrics, The Jikei University School of Medicine, Minato-ku, Tokyo, Japan	Role of ultrasound in revealing complications following percutaneous renal biopsy in children.	Clin Nephrol. 2013 Dec;80(6):426-32

55	Akiyama Ma,b	aDepartment of Pediatrics, The Jikei University School of Medicine, 3-25-8 Nishi-shinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8461, bDivision of Molecular Genetics, Institute of DNA Medicine, The Jikei University School of Medicine, 3-25-8 Nishi-shinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8461,	Telomerase activation as a repair response to radiation-induced DNA damage in Y79 retinoblastoma cells.	Cancer Lett. 2013 Oct 28;340(1):82-7
56	Higurashi Na,b,c	aDepartment of Pediatrics, School of Medicine, Fukuoka University, 7-45-1, Nanakuma, Jonan-ku, Fukuoka 814-0180, bCentral Research Institute for the Pathomechanisms of Epilepsy, Fukuoka University, 7-45-1, Nanakuma, Jonan-ku, Fukuoka 814-0180, cDepartment of Pediatrics, Jikei University School of Medicine, 3-25-8, Nishi-Shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8461,	PCDH19-related female-limited epilepsy: further details regarding early clinical features and therapeutic efficacy.	Epilepsy Res. 2013 Sep;106(1-2):191-9
57	Saeki H	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Genetic polymorphisms in the IL22 gene are associated with psoriasis vulgaris in a Japanese population.	J Dermatol Sci 71: 148-50, 2013.
58	Yano C	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Impact of disease severity on work productivity and activity impairment in Japanese patients with atopic dermatitis.	J Dermatol 40: 736-9, 2013.
59	Hayashi M	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Impact of disease severity on work productivity and activity impairment in Japanese patients with psoriasis.	J Dermatol Sci 72: 188-91, 2013.
60	Yano C	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Impact of disease severity on sleep quality in Japanese patients with atopic dermatitis.	J Dermatol Sci 72: 195-7, 2013.
61	Umezawa Y	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Drug survival rates in patients with psoriasis after treatment with biologics.	J Dermatol 40: 1008-13, 2013.
62	Umezawa Y	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Palisaded neutrophilic and granulomatous dermatitis in a rheumatoid arthritis patient after treatment with adalimumab.	Palisaded neutrophilic and granulomatous dermatitis in a rheumatoid arthritis patient after treatment with adalimumab.
63	Nobeyama Y	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Nobeyama Y, Nakagawa H.	J Dermatol. 2013 Jun;40(6):484-5
64	Nobeyama Y	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Case of epidermal cyst on the glans penis.	J Dermatol. 2013 Jul;40(7):575-7.
65	Nobeyama Y	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Syringocystadenoma papilliferum on the dorsum of the foot.	J Dermatol. 2013 Jun;40(6):486-7.

66	Takasaka M	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Skin ultrasound examination proves useful in diagnosing two cases of solid cystic hidradenoma	Int J Dermatol 53: e146-7, 2014.
67	Urnezawa Y	Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, Japan	Risk of herpes zoster in psoriatic patients undergoing biologic treatment.	J Dermatol. 2014 Feb;41(2):168-70.
68	Takeyama H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Operative Indications of Follicular Type Tumors, Based on Japanese Clinical Guidelines.	World J Surg Proc 2013; 3(3): 41-6
69	Misawa T	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Efficacy of nasopancreatic stenting prior to laparoscopic enucleation of pancreatic neuroendocrine tumor.	Asian J Endosc Surg. 2013 May;6(2):140-2.
70	Yoshizawa J	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure for inguinal hernia: learning curve for attending surgeons and residents.	Pediatr Surg Int. 2013 Dec;29(12):1281-5
71	Odaka M	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Oncological outcomes of thoracoscopic thymectomy for the treatment of stages I-III thymomas.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2013 Aug;17(2):285-90. Epub 2013 Apr 30.
72	Eto K	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Transumbilical defunctioning ileostomy: a new approach for patients at risks of anastomotic leakage after laparoscopic low anterior resection.	Anticancer Res 33(11):5011-5, 2013.11
73	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Switching from tacrolimus to cyclosporine A for primary biliary cirrhosis recurrence after living-donor liver transplantation.	Int Surg 2013.5; 98(2): 156-9.
74	Shida A	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Reduced expression of Rho GDP dissociation inhibitor 2 mRNA is associated with lymph node metastasis in gastric carcinoma.	Oncol Lett 2013.8; 6:463-7.
75	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Resection for liver metastases from colorectal cancer.	Anticancer Res. 2013 Jun;33(6):2723-8.
76	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Glasgow prognostic score predicts therapeutic outcome after pancreaticoduodenectomy for carcinoma of the ampulla of vater.	Anticancer Res. 2013 Jun;33(6):2715-21.
77	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Negative impact of fresh frozen plasma transfusion on prognosis of pancreatic ductal adenocarcinoma after pancreatic resection.	Anticancer Res 2013.9; 33(9): 4041-7.
78	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Practice to minimize the use of blood products improve outcome after hepatic resection for hepatocellular carcinoma.	Hepato-Gastroenterol 60(127):1681-8, 2013.10
79	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Comparison of hepatocellular carcinoma with cirrhosis patients undergoing hepatic resection between hepatitis B and C infection.	Hepato-Gastroenterol 60(127):1746-8, 2013.10
80	Shiba H	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Assessment of therapeutic outcome after curative resection of extremely elderly patients with hepatobiliary-pancreatic malignancy.	Jikeikai Med J 60(4): 65-8, 2013.12
81	Matsumoto A	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	High UBCH10 protein expression as a marker of poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma.	Anticancer Res 2014 Feb;34(2):955-962.

82	Rei M	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	DYRK2 controls the epithelial-mesenchymal transition in breast cancer by degrading Snail.	Cancer Letters 2013; 339 (2): 213-225
83	Haruki K	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Negative impact of surgical site infection on long-term outcomes after hepatic resection for colorectal liver metastases.	Anticancer Res 33(4):1697-703, 2013.4
84	Haruki K	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Postoperative peripheral blood monocyte count correlates with postoperative bile leakage in patients with colorectal liver metastases after hepatic resection.	Langenbecks Arch Surg. 2013.8; 398(6):851-5
85	Haruki K	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Inhibition of NF- κ B enhances the antitumor effect of tumor necrosis factor- α gene therapy for hepatocellular carcinoma in mice.	Surgery 154(3):468-78, 2013.9
86	Haruki K	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Practice to extend indication of hepatic resection for colorectal liver metastasis.	Hepato-Gastroenterol 60(127):1633-8, 2013.10
87	Iwase R	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Combination chemotherapy of nafamostat mesilate with gemcitabine for gall bladder cancer targeting nuclear factor- κ B.	J Surg Res 184(1):605-12, 2013.8
88	Iwase R	Department of Surgery, Jikei University School of Medicine	Postoperative lymphocyte count may predicts outcome of radical resection for gallbladder carcinoma.	Anticancer Res 33(8):3439-44, 2013.8
89	Ikedo R.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	Merkel cells transduce and encode tactile stimuli to drive A β -afferent impulses.	Cell. 2014; 157(3): 664-675
90	Tamegai H.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	A modified S-ROM stem in primary total hip arthroplasty for developmental dysplasia of the hip.	The Journal of Arthroplasty. 2013; 28: 1741-1745
91	Tanaka T.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	Opening wedge high tibial osteotomy using a Puddu plate and β -tricalcium phosphate blocks.	Techniques in Orthopaedics. 2013; 28(2): 185-190
92	Hayashi H.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	Myasthenia gravis in a professional cyclist- A case report.	Open Journal of Therapy and Rehabilitation. 2013; 1: 5-9
93	Kato S.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	Distinctive collagen maturation process in fibroblasts derived from rabbit anterior cruciate ligament, medial collateral ligament, and patellar tendon in vitro.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013; 13. doi: 10.1007/s00167-013-2773-8
94	Tanaka T.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	A novel evaluation system to monitor bone formation and β -tricalcium phosphate resorption in opening wedge high tibial osteotomy.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 Feb 5. doi: 10.1007/s00167-014-2870-3
95	Funasaki H.	Department of Orthopaedic Surgery, The Jikei University School of Medicine.	Arthroscopic excision of bone fragments in a neglected fracture of the lateral process of the talus in a junior soccer player.	Arthroscopy Techniques. in press 2014
96	Hiroteru Hayashi	Dept. of Sports and Wellness Clinic, Jikei Univ. school of Med.	Myasthenia gravis in a professional cyclist- A case report.	Open journal of Therapy and Rehabilitation 1 (2) : 5-9, 2013.
97	Mori R.	Department of Neurosurgery, Department of Otorhinolaryngology	Initial Experience of Real-Time Intraoperative C-Arm Computed-Tomography-Guided Navigation Surgery for Pituitary Tumors.	World Neurosurgery 79(2)319-326,2013

98	Mori R.	Department of Neurosurgery	Clinicopathological features of growth hormone-producing pituitary adenomas in 242 acromegaly patients: classification according to hormone production and cytokeratin distribution.	ISRN Endocrinology 2013, Article ID 723432, 8 pages doi:10.1155
99	Takao H.	Department of Neurosurgery	Validation and Initial Application of a Semiautomatic Aneurysm Measurement Software: A Tool for Assessing Volumetric Packing Attenuation.	AJNR Am J Neuroradiol. 35: 721-726, 2014
100	Ishibashi T.	Department of Neurosurgery	Justification of unruptured intracranial aneurysm repair: a single-center experience.	AJNR Am J Neuroradiol. 2013 Aug;34(8):1600-5.
101	Murayam Y.	Department of Neurosurgery	Combined Surgical and endovascular treatment of complex cerebrovascular diseases in the hybrid operating room.	J Neurointerventional Surgery 5:489-493,2013
102	Dobashi H.	Department of Neurosurgery	Thermoreversible gelation polymer as an embolic material for aneurysm treatment: a delivery device for dermal fibroblasts and basic fibroblast growing factor into experimental aneurysms in rats.	J Neurointerventional Surgery 5:586-590,2013
103	Tanaka T.	Department of Neurosurgery	Long-Term Survival following Gross Total Resection of Pediatric Supratentorial Ependymomas without Adjuvant Therapy.	Pediatric Neurosurgery 48:379-384, 2013
104	Tanaka T.	Department of Neurosurgery	Wax pile method for glioma surgery utilizing intraoperative agnetic resonance omaging:a technical note.	Neuroscience Discovery 2013 doi:10.7243/2052-5046.1.6
105	Kato N.	Department of Neurosurgery Jikei University, Charite CyberKnife Center Charite- Univrsitatsmedizin Berlin,	Functional brain mapping of patients with arteriovenous malformations using navigated transcranial magnetic stimulation: first experience in ten patients.	Acta Neurochir (Wien), [Epub ahead of print], DOI 10.1007/s00701-014-2043-7, 2014 Mar 18,
106	Ishida K.	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Free skin flap reconstruction after partial hypopharyngectomy with laryngeal preservation.	J Plast Surg Hand Surg. 2014 Early Online:1-6
107	Sakamoto Y.	Department of Cardiac Surgery	Update on aortic valve prosthesis-patient mismatch in Japan.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2013;61:669-75.
108	Inoue T.	Department of Cardiac Surgery	Depressed Frank-Starling mechanism in the left ventricular muscle of the knock-in mouse model of dilated cardiomyopathy with troponin T deletion mutation Δ K210.	Journal of Molecular and Cellular Cardiology. 2013;63:69-78
109	Yanaihara N	Department of Obstetrics and Gynecology	MicroRNA Involvement in Human Cancers.	Clinical Chemistry
110	Japanese study group of IgG4-related ophthalmic disease (Shikishima K)	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	A prevalence study of IgG4-related ophthalmic disease in Japan	Jpn J Ophthalmol 2013; 57(6): 573-9.
111	Akira W	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Examination of capsular bag–implanted intraocular lenses using an indirect contact lens during vitreous surgery	Journal of Cataract & Refractive Surgery 2013; 39(12) 1929-1930
112	Sakai T	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Genetic polymorphisms associated with endothelial function in nonarteritic anterior ischemic optic neuropathy	Mol Vis 2013; 19: 213-10.
113	Sakai T	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Resolution of Acute Photoreceptor Damage as Revealed by Serial SD-OCT	Optom Vis Sci. 2013;90:e142-146.
114	Ohkuma Y	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	One-year results of reduced fluence photodynamic therapy for central serous chorioretinopathy: the outer nuclear layer thickness is associated with visual prognosis	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2013;251:1909-1917

115	Ohkuma Y	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Retinal angiomatous proliferation associated with risk alleles of ARMS2/HTRA1 gene polymorphisms in Japanese patients	Clin Ophthalmol. 2014;8:143-8
116	Ohkuma Y	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Retinal angiomatous proliferation associated with risk alleles of ARMS2/HTRA1 gene polymorphisms in Japanese patients	Clin Ophthalmol 2014 ; 8 : 143-148
117	Shibata A	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Efficacy of reduced-fluence photodynamic therapy for serous retinal pigment epithelial detachment with choroidal hyperpermeability	Clin Ophthalmol 2013 ; 7 : 2123-2126
118	Cho A	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Femtosecond laser-induced macular hole followed by spectral-domain optical coherence tomography	Clin Experiment Ophthalmol. 2013;41:812-815
119	Katagiri S	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Choroidal neovascularization in angiod streaks following microincision vitrectomy surgery: a case report	BMC Ophthalmol 2013 ; 13 : 29
120	Katagiri S	Department of Ophthalmology Jikei University School of Medicine	Whole-exome sequencing identifies a novel ALMS1 mutation (Q2051X) in two Japanese brothers with Alström Syndrome	Mol Vis 2013 ; 19 : 2393-2406
121	Kojima H.	Otolaryngology	Comparison between endoscopic and microscopic stapes surgery.	Laryngoscope 2014;124(1):266-71
122	Yaguchi Y.	Otolaryngology	Middle Ear Mucosal Regeneration with Three-Dimensionally Tissue-Engineered Autologous Middle Ear Cell Sheets in Rabbit Model.	Journal of Tissue Engineering and Regenerative Medicine
123	Yoshikawa M.	Otolaryngology	Cholesteatoma fibroblasts promote epithelial cell proliferation through overexpression of epi-regulin.	PLoS One
124	Mori E.	Otolaryngology	Risk factors for olfactory dysfunction in chronic rhinosinusitis.	Auris Nasas Larynx 2013;40(5):465-9
125	Ando Y.	Otolaryngology	Risk factors for recurrent epistaxis: Importance of initial treatment.	Auris Nasas Larynx 2014;41:41-5
126	Komori M.	Otolaryngology	Long-term effect of enzyme replacement therapy with fabry disease.	International Journal of Otolaryngology
127	Hayashi K, et.al.	Jikei Univ.	Absence of the articular disc in the tasmanian devil temporomandibular joint.	Anat Histol Embryol 42; 415-9: 2013
128	Fujii T	Jikei Univ.	Subacute kidney injury in hospitalized patients	Clin J Am Soc Nephrol. 2014; 9(3): 457-61
129	Yumoto M	Jikei Univ.	Blebbistatin, a myosin II inhibitor, suppresses Ca(2+) induced and "sensitized"-contraction of skinned tracheal muscles from guinea pig	J Smooth Muscle Res. 2013; 49:89-98
130	Uchino S	Jikei Uni.	Validity of low-intensity continuous renal replacement therapy	Crit Care Med. 2013; 41(11):2584-91
131	Inomata H	Department of Endoscopy	Efficacy of a novel auto-fluorescence imaging system with computer-assisted color analysis for assessment of colorectal lesions.	World J Gastroenterol 2013 Nov 7;19(41):7146-53.
132	Aihara H	Department of Endoscopy	Computer-aided diagnosis of neoplastic colorectal lesions using 'real-time' numerical color analysis during autofluorescence endoscopy	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2013 Apr;25(4):488-94
133	Sumiyama K	Department of Endoscopy	.A double-blind, block-randomized, placebo-controlled trial to identify the chemical assistance effect of mesna submucosal injection for gastric endoscopic submucosal dissection	Gastrointest Endosc. 2013 Nov 12. pii: S0016-5107(13)02413-9

134	Dobashi A	Department of Endoscopy	Quantitative analysis of VEGF-C mRNA of extrahepatic cholangiocarcinoma with real-time PCR using samples obtained during endoscopic retrograde cholangiopancreatography	Scand J Gastroenterol. 2013 Jul;48(7):848-55
135	Tamai N	Department of Endoscopy	Glucagon facilitates colonoscopy and reduces patient discomfort: a randomized double-blind controlled trial with salivary amylase stress analysis	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2013 May;25(5):575-9
136	Horiuchi H	Department of Endoscopy	Magnifying endoscopy combined with narrow band imaging may help to predict neoplasia coexisting with gastric hyperplastic polyps	Scand J Gastroenterol. 2013 May;48(5):626-32
137	Sato S.	Department of Pathology, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan.	Clinicopathological analysis of prostatic adenocarcinoma at anterior location in Japanese men.	Modern Pathology 2014 2:258-259A

計 137

(注) 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限り)。

「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
~				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 別紙手順書参照	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 別紙参照	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 11 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3~4回
・ 研修の主な内容 テーマ：生存時間解析、医学研究における利益相反、ヒトゲノム遺伝子解析、臨床研究の進め方 臨床研究に関する倫理指針、先端医療研究の倫理的問題	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

専門取得コースプログラム概要を参照ください

2 研修の実績

研修医の人数	171人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田尻 久雄	消化器・肝臓内科	診療部長	38年	
井口 保之	神経内科	診療部長	21年	
横尾 隆	腎臓・高血圧内科	診療部長	23年	
黒坂 大太郎	リウマチ・膠原病内科	診療部長	29年	
吉村 道博	循環器内科	診療部長	28年	
宇都宮 一典	糖尿病・代謝・内分泌内科	診療部長	35年	
相羽 恵介	腫瘍・血液内科	診療部長	37年	
桑野 和善	呼吸器内科	診療部長	32年	
大野 岩男	総合診療部	診療部長	35年	
中山 和彦	精神神経科	診療部長	37年	
井田 博幸	小児科	診療部長	33年	
中川 秀己	皮膚科	診療部長	37年	
大木 隆生	外科	統括責任者	27年	
曾雌 茂	整形外科	診療部長代行	29年	
村山 雄一	脳神経外科	診療部長	25年	
内田 満	形成外科	診療部長	33年	
橋本 和弘	心臓外科	診療部長	36年	

岡本 愛光	産婦人科	診療部長	28年
穎川 晋	泌尿器科	診療部長	33年
常岡 寛	眼科	診療部長	38年
小島 博己	耳鼻咽喉科	診療部長	27年
安保 雅博	リハビリテーション科	診療部長	24年
福田 国彦	放射線医学講座	教授	37年
上園 晶一	麻酔部	診療部長	26年
瀧浪 将典	ICU	診療部長	27年
加藤 智弘	内視鏡部	診療部長	30年
堀 誠治	感染制御部	診療部長	35年
鷹橋 浩幸	病院病理部	診療部長代行	26年
小川 武希	救急部	診療部長	38年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 丸毛 啓史
管理担当者氏名	事務部長 植松 美知男

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院日誌 ・院長室、管理課、業務課 他 診療記録 ・診療情報室 ・フィルム係 他	各部署にて年度別に保管。 診療記録関連は、患者別、入院外来別に診療情報室にて管理。 但し、記録の種類によっては異なる。 診療録の病院外への持ち出しは禁止しており「東京慈恵会医科大学附属病院診療情報管理規程」に定めている。 また、運用内規により外部保管について定めている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室	
	高度の医療の提供の実績	診療各科、 管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	診療各科、 管理課	
	高度の医療の研修の実績	診療各科、 管理課、 臨床研修センター	
	閲覧実績	管理課、業務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	診療各科	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課、業務課、 薬剤部	
第規一則号第 に一掲条 の十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 び第 九条 の二 十第 一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室 及び関係各部署	医療安全管理指針に基づき年1回以上、指針の改定等の必要性について審議する
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	毎月、セーフティマネジメント委員会を開催 医療安全推進室「委員会」ファイル
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	年度計画を立て、医療安全関係研修会等を企画医療安全推進室「教育研修」ファイル
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	セーフティマネジメント委員会、セーフティマネージャ会議にて分析、指導を実施。 重大事例には事例検討会を開催し分析、再発防止策を検討 医療安全推進室「管理」ファイル
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針による
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	看護部 (患者相談窓口 担当)	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 毎月、感染対策委員会を開催。感染対策室「感染対策委員会」ファイル
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室 感染対策室 年度計画をを立て、感染対策関係研修会等を企画。医療安全推進室「教育研修」ファイル
	第一項各号及び第九条の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策委員会にて報告、検討 院内ラウンドの実施 感染対策室ファイル
	第一項	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
	第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 年度計画をを立て、医薬品安全使用関係研修会等を企画。医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 セーフティマネジメントマニュアル 医薬品安全使用のための業務手順書 実施状況調査ファイル
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医薬品安全使用のための業務手順書 「病棟部門・手術部門・集中治療部門・外来部門・薬剤部・輸血部等」ファイル
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 年度計画をを立て、医療機器安全使用関係研修会等を企画
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 セーフティマネジメントマニュアル内「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書」に基づく所定書式にて分類	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 各部署ごとに保管管理 中央管理機器については、機器格納庫書棚等に保管管理	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。※追加

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	院長 丸毛 啓史	
閲覧担当者氏名	事務部長 植松 美知男	
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	
閲覧の手続の概要 病院若しくは病院長宛の文書による依頼に基づき、病院長が認めた内容について閲覧場所（附属病院会議室）を定めて実施。 閲覧時は、当院教職員が立ち会うものとする。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	3 件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	3 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理に関する基本的な考え方2. 医療安全管理のための組織・体制3. 医療に係わる安全管理のための教員研修4. 医療問題発生時の対応5. 医療事故発生時の対応6. 患者相談窓口の設置7. 患者との情報共有8. 附属4病院の連携強化（情報の共有）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療事故防止対策の検討及び研究2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討3. 医療事故防止のための提言4. 医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版5. 医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染の防止6. 医療安全の推進に関すること7. スタットコール(院内救急)に関すること8. 院内迅速対応システム(RRS)に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 65 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. セーフティマネジメント基礎研修会2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム3. 転倒・転落予防のための勉強会4. 褥瘡セミナー5. 派遣・委託職員対象セーフティマネジメント研修会6. BLSコース/ICLSコース7. チーム医療構築ワークショップ8. 医療機器の安全使用のための講習会9. Team STEPPS講習会	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院長、医療安全管理部長、副部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施 2. ネットワークパソコンによる医療問題発生報告システムの運用 3. 緊急セーフティマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施 4. セーフティマネジメント委員会及びフロアセーフティマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の周知と徹底 5. 医療問題分析ツールRCA分析による根本原因の分析と対策立案 6. 問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践 7. 医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施 8. 関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告 9. 所轄警察署への適切な報告 10. 異状死届出ガイドラインの整備とモデル事業への参画 11. 医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備 	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 (2名) ・ 無
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 (2名) ・ 無
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (8) 名 兼任 (14) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施 2. 教職員への安全に関する教育・研修の企画、実施 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言 4. 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション 5. 改善策実施後の評価 6. セーフティマネジメントマニュアルの整備・管理 7. セーフティマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他セーフティマネジメント委員会の庶務に関すること 8. 医療安全連絡会議の運営に関すること 9. 院内感染対策に関する連携 	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための組織3. 院内感染対策のための教職員に対する研修4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 当該指針の閲覧7. 院内感染対策推進のために必要なその他の基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 菌検出状況報告と対策の検討2. 抗菌薬使用状況報告と対策の検討3. 感染に関する問題発生報告と対策の検討4. 血液体液汚染発生状況報告と対策の検討5. 感染対策のための啓発、教育、広報に関する検討6. 感染対策指針およびマニュアルの改訂、運用に関する検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 132 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染対策ベーシックレクチャー2. 耐性菌の感染対策3. 抗菌薬適正使用について4. 針刺し事故対策5. 研修医オリエンテーション：感染対策について6. 新入職看護師に対する技術研修7. 委託業者対象感染対策勉強会（新型インフルエンザ・ノロウイルス）8. ガブキーカンファレンス（結核患者の画像データを題材とした症例検討会）9. 医局会・病棟等への訪問レクチャー	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染対策上重要な病原体が検出されると、検査室よりただちに感染対策室へ報告される。また、画像診断部医師による読影の際、結核が否定できない所見が発見された場合も感染対策室に報告されることとなっている。病棟などで、感染症の疑いが発生した場合にも、ただちに感染対策室へ報告され、担当者が対応する体制となっている。さらに、全病棟に病棟ICTを立ち上げ、感染対策室と定期的にミーティングを開催している。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：(25年度分)</p> <p>新人薬剤師研修会 (H25. 4) 「医療安全における医薬品の安全管理について」</p> <p>新人看護師研修会 (H25. 5) 「注射薬の基礎知識」</p> <p>医療安全セミナー (H25. 6) 「医薬品副作用救済制度について」</p> <p>医薬品・医療機器安全使用セミナー (H25. 7) 「薬の安全な使用について」</p> <p>看護師注射薬ミキシング講習会 (H25. 8) 「注射薬の安全管理と基礎知識」</p> <p>医薬品・医療機器安全セミナー (H25. 11) 「より良い情報提供のために」</p> <p>医薬品・医療機器安全セミナー (H26. 2) 「血漿分画製剤の安全管理」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>今年度は、「注射薬投与時の血管外漏出予防について」、「転倒リスクのある患者への睡眠薬投与について」について、業務手順書の改定を行い、その後手順書(チェックリストとして使用可)を関係部署へ配布し実施状況の確認を行い、記録した。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ハイリスク薬の掲載品目を見直し、新規更新し、院内に周知した。 抗凝固薬・抗血小板作用薬の休薬、周術期使用、再開に関する指針を見直し、新規薬品を追記した。 また、DVT予防に関わる安全管理規程の一部改定を行った。 薬剤部医薬品情報室および病棟薬剤師と連携し、メーカー、インターネットからの情報収集、部外講習会への参加をするなどして情報の収集を行い、必要に応じて院内への情報提供を行なっている。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年339回
研修の主な内容：平成25年度実績	
5月10日(金) 輸液ポンプ, シリンジポンプの正しい取り扱いについて 5月24日(金) 輸液ポンプ, シリンジポンプの正しい取り扱いについて 6月7日(金) 輸液ポンプ, シリンジポンプの正しい取り扱いについて 6月28日(金) 人工呼吸と安全管理について 7月12日(金) 医薬品・医療機器安全講習会 (薬の安全使用について・医療ガスの安全使用について) 9月6日(金) チェストドレインバックの安全使用について 9月20日(金) 静脈血栓予防機器の安全使用について 10月4日(金) 酸素療法 of 安全使用について 10月18日(金) 血液浄化装置の安全使用について 11月8日(金) 医薬品・医療機器安全講習会 (より良い情報提供のために・医療安全の為のモニタリング) 12月6日(金) 心電図モニタ・除細動器の安全管理 1月17日(金) 補助循環 (IABP・PCPS) について 1月24日(金) 医療ガスの安全使用について学ぶ 1月31日(金) 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全使用・新型輸液ポンプ OT-808G の取扱いについて 2月21日(金) 血漿分画製剤について・輸液ポンプの安全管理 3月13日(金) 血液浄化装置の安全使用について・除細動器の安全使用について	
医療機器安全講習会 (開催回数、出席者数)	
1) 放射線部 32回 (前年比: -8回) (参加者: 626名 前年比: +297名) 2) 中央検査部 3回 (前年比: -15回) (参加者: 21名 前年比: -15名) 3) リハ科 3回 (前年比: -2回) (参加者: 23名 前年比: -9名) 4) 臨床工学部 301回 (前年比: +36回) (参加者: 3381名 前年比: +511名)	
総計: 339回 (前年比: +11回) (参加者総数: 4051名 前年比: +784名)	
内「医療機器安全使用のための講習会」 17回 (前年比: +6回) (参加者: 1185名 前年比: +105名)	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有 無) ・ 保守点検の主な内容:	
中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連 (各外来、ICU、CCU、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など) それぞれの部門に設置 (配置) されている各種機器について、日常点検 (始業点検、使用中点検、使用後点検) を行う。	
☆保守点検を実施している主な医療機器 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ 上記機種については、医療機器安全管理責任者が代表を務める「医療機器安全管理作業部会にて進捗状況を適宜報告している。	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 安全性情報

① 診療連絡速報 (発行なし)

② 診療連絡報 (10回発行)

平成25年5月 NO. 25-(42)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (4月分)」

平成25年6月 NO. 25-(62)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (5月分)」

平成25年7月 NO. 25-(75)B

「臨床工学部保有中央管理機器取り扱いマニュアルの運用について」

平成25年7月 NO. 25-(76)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (6月分)」

平成25年8月 NO. 25-(87)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (7月分)」

平成25年9月 NO. 25-(106)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (8月分)」

平成25年10月 NO. 25-(127)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (9月分)」

平成25年11月 NO. 25-(137)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (10月分)」

平成26年1月 NO. 25-(177)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (12月分)」

平成25年3月 NO. 25-(218)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (2月分)」

③ おしらせ (発行なし)

2) 医療機器安全管理作業部会情報

① 医療機器安全管理情報 (6回発行)

平成25年7月 18号

「エアマットの安全な使用について」

平成25年7月 19号

「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書の改定について」

平成25年7月20号

「医療機器の落下防止対策」

平成25年10月 21号

「電源コンセント使用における注意点」

平成26年1月 22号

「心電図モニターの点検について」

平成26年3月 23号

「ベットサイドモニタ送信機」

3) 医療機器の不具合情報の発信（発生時随時）

自主回収報告数（発生件数）

合計：25件（クラスⅠ：0件、クラスⅡ：25件、クラスⅢ：0件、計25件）

院内報 通知日	No.	PMDA 通知日	クラス	項目
4月19日	25-2	4月23日	Ⅱ	フリップスハートスタートMRx モニタ/除細動器
4月22日	25-3	4月22日	Ⅱ	薬剤溶出型大腿動脈用ステント(Zilver PTX 薬剤溶出型末梢血管用ステント)
5月2日	25-4	5月8日	Ⅱ	多用途透析装置(個人用 HDF 装置 NDF-21)
5月30日	25-6	5月15日	Ⅱ	パルスオキシメータ(マシモ SET Rad-8)
6月20日	25-8	6月20日	Ⅱ	成人用人工呼吸器(V60 ベンチレーター)
6月24日	25-9	6月17日	Ⅱ	体内固定用プレート
6月27日	25-10	6月26日	Ⅱ	不整脈モニタリングシステム(医用テレメータ WEP-5200 シリーズ)
7月11日	25-12	7月4日	Ⅱ	医薬品・ワクチン用注入器(パラダイム リザーバー)
7月18日	25-13	7月3日	Ⅱ	加圧式医薬品注入器(バクスターインフューザー)
7月22日	25-14	7月22日	Ⅱ	造影剤用輸液セット(アバンタ ディスポーザブルセット)
8月7日	25-15	8月1日	Ⅱ	バルーン拡張式血管形成術用カテーテル(フレックスストーム ペリフェラル カッティングバルーン)
8月12日	25-16	8月7日	Ⅱ	吸収性人体固定具(オステオラプターHA アンカー)
8月13日	25-17	8月7日	Ⅱ	多用途透析装置(個人用 HDF 装置 NDF-21)
8月14日	25-18	8月14日	Ⅱ	単回使用人工鼻フィルタ(モイストラップF)
8月26日	25-20	8月20日	Ⅱ	デスフルラン用麻酔薬気化器(Tec6 プラス 気化器 デスフルラン)
8月30日	25-21	8月26日	Ⅱ	紫外線治療器(キャビン型紫外線治療器 7001)
8月28日	25-22	8月26日	Ⅱ	単回使用皮下注射用針(フローマックス)
9月5日	25-23	8月30日	Ⅱ	(1)除細動機能付植え込み型両心室ペースングパルスジェネレータ(2)デュアルチャンバ自動植え込み型除細動器(3)自動植え込み型除細動器
9月13日	25-24	9月3日	Ⅱ	人工心膜用補綴材(ゴアテックス EPTFE パッチⅡ)
9月13日	25-25	9月9日	Ⅱ	手動式除細動器(ハートスタート MRX)
10月29日	25-28	10月4日	Ⅱ	単回使用皮下注射用針(フローマックス)
12月12日	25-30	12月11日	Ⅱ	人工呼吸器(840)

2月21日	25-33	2月20日	Ⅱ	呼吸回路セット(インターサージカル呼吸回路師リール)
3月25日	25-36	3月18日	Ⅱ	血液・薬液用加温コイル(ホットライン加温コイル)
3月31日	25-37	3月31日	Ⅱ	起子(キャットハンド)